

報道関係各位

2019年10月28日
山根木材ホーム株式会社

山根木材と石崎本店が木製サッシを共同開発・販売開始

山根木材ホーム株式会社(本社: 広島市南区、代表取締役: 山根誠一郎)と株式会社石崎本店(本社: 広島市安芸区、代表取締役社長: 石崎信三)は、共同で開発を進めていた木製サッシ『ひびき』の商品化を実現し、10月1日より受注・販売を開始いたします。かねてより、広島から発信できる商品を展開したいという両社の想いが形になりました。

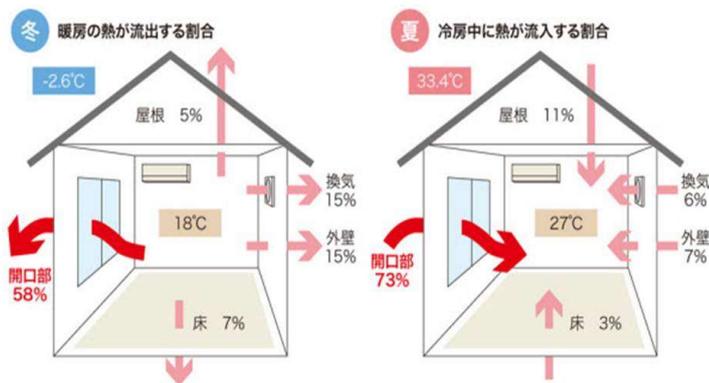
■背景

《山根木材》

近年、国産材の利用促進が推奨されており、公共建築物の木造化・木質化が拡大しています。気候変動などの環境問題は深刻さを増しており、循環型社会やサステナブルな生活を求める声は大きくなっています。以前より、山根木材では広島県産材の利用を展開しており、地域への貢献に努めてきました。もっと木材の利用を増やして環境や地域への貢献ができないか検討して参りました。

《サッシ》

住宅の省エネルギー対策の中で最も重要とされている部材が窓(サッシ)です。エネルギー損失の大部分が窓からと言われています。新築に使用されるサッシは、樹脂やアルミと樹脂の複合サッシが主流となっており、高性能化が進んでいます。既存住宅はまだまだリフォームが進んでおらず課題とされています。



一般的な住宅で生じる熱の損失を、部位ごとに相対化した値。特に開口部からの熱の出入りが大きいことが分かる。1999年の省エネ基準(次世代省エネ基準)で建てた家がモデル(資料: 日本建材・住宅設備産業協会の資料を基に作成)

《木製サッシ》

断熱性能は、アルミサッシよりも高く樹脂サッシと同等。価格が高めなこと、メンテナンスが必要なことから普及が進んでいません。また、広島に木製サッシメーカーがないことで馴染みも少ないことも要因として挙げられます。木製サッシは木の風合い、色、柄が建物外観のデザイン性を向上させるほか、その高級感とぬくもりが住むひとへ癒しをあたえます。製作時の環境負荷も低く、普及が望まれている商品です。

■『ひびき』 特徴及び仕様概要

広島で工場木製サッシを組み立て

今まで、県外の企業から仕入れるしかなかった木製サッシが
広島で生産・購入できるようになりました。

サッシ枠は強度に加え耐久性の高いアルミを使用。

断熱性を高める為、室内側からサーモウッドでカバーし内観からは
木の風合いしか見えません。

サッシ障子の部分は木目を生かした仕上げとしています。

木とアルミの良い部分を組み合わせ、

陽当りがよい瀬戸内の気候に適した商品にしました。

* サーモウッド： 特殊処理を施した薬剤不使用の高耐久木材

リフォームにも対応した工法を開発

既存のサッシ枠をそのまま利用して木製サッシを取付けることが可能です
既存のサッシを外壁を壊して枠から外す必要がありません。

外壁に影響なく工事ができるため価格も工期も抑えることができます。

木製サッシを取付するリフォームにより、断熱性、気密性が向上し
省エネにつながります。

(状況によっては施工できない場合がありますのでご相談願います)



販売目標 50窓

* 実物は山根木材本社ショールーム 『納得すまいる館』にて展示しております。

リフォーム用 カバー工法の展示もごさいます。(事務所内のため要予約)

<本リリースにおいてのお問合せは>

山根木材ホーム(株) 担当:児玉(コダマ) TEL082-254-3234

(株)石崎本店 担当:有田(アリタ) TEL082-820-1602